



農業委員会だより

発行 中野市農業委員会

編集 農業委員会だより編集委員会

問い合わせ先 農業委員会事務局 ☎ (22) 2111 (内線 409)



昨年11月8日に開催された、第1回長野県農業委員会大会の様子

新年のごあいさつ

会長 中村秀人



皆様には、輝かしき新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

平素は、安全安心な農産物作りを通じて、農業の振興発展に励まされると同時に、中野市農業委員会に対しご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、農業を取り巻く情勢は、国会において、TPP協定の承認を求める議案と関連法案が成立しました。しかし、農業者の不安や疑問が払拭されていない中で、トランプ次期米大統領はTPP離脱を表明し、さらにハードルの高い二国間での自由貿易協定FTA交渉を進める意向を示しています。

また、政府規制改革推進会議の公表した農業・JA改革案は決して容認できるものでなく、先行きの不透明感がさ

らに増しております。

このような中、昨年4月より農業委員会等に関する法律が改正施行され、新たな委員会制度が始まりつつあり、本市は、平成30年4月より新制度に移行となります。農業委員会では、農業現場で直面している後継者不足、遊休農地の解消、農地の最適化推進への対応と、今後の農業委員会のあり方を取りまとめた提言書を池田市長へ提出し、要望しました。

農業委員会では、毎年実施している農地の利用状況の調査を取りまとめ、耕作されていない農地については、今後どのように利用されるかの「意向調査」を、現在実施しております。遊休農地の解消、課税強化への対策の観点から、自ら判断され、必ず提出されますようお願い申し上げます。

本年も皆様にとって、実り多き年でありますことを祈念申し上げます、新年のごあいさつといたします。

各部会研修視察報告

農政部会 春原助義

農政部会では、昨年11月22日に長野市役所松代支所において、長野市農業委員会が実施している「耕作放棄地の非農地決定方法」の研修を受けました。

長野市の農地は、中山間地域の割合が高く農業従事者の高齢化が進み、耕作放棄率は平地地域が約11%に対して、中山間地域は約38%にも上っています。そこで、荒廃農地区分で再生利用が困難と見込まれると判定された農地について、平成20年度から非農地

として決定の手続きを進めています。

調査は、航空写真などを使用して判断し、昨年度までに、約2千畝を非農地決定しました。

判定基準の現地研修は、松代町豊栄の圃場で行われ、耕作地と真向かいの小高い山に挟まれた農地が、何年も耕作されておらず、草が生い茂り雑木も何本か生えている状況の判定基準についての説明を受けました。

このような、耕作放棄地を見るにつけ、農業委員としてそこに至る経緯や現況をしつ



▲長野市農業委員会での研修の様子

農地部会 山田喜英

毎年、農地部会では、業務推進の参考とするため、研修視察を行っています。

昨年は、11月10日に市内の遊休荒廃農地の現状を視察しました。

これは、農地利用の最適化を進める一方で「遊休農地への課税強化」が行われることから、遊休農地の判定の統一を図るため、市内一円で実施

しました。判定基準は「遊休農地及び再生利用が可能な荒廃農地」と「再生利用が困難と見込まれる荒廃農地」を判断するものです。

最初の地区は、一面が山林と原野で、この場所が「農業振興地域」との説明を受けたとき、全員驚きの声を上げました。確かに、道路はコンクリート舗装されており、畑地帯であった痕跡があるので、今は原野と化しているの

かり把握して、活動をしていなくてはいけないとの思いにかられました。

です。次の地区では、果樹園の周りが荒廃農地になっている状況や、傾斜地の荒廃状況を見ました。

今回の視察を通じて、耕作に適さない農地は山林に戻し、逆に再生可能な農地は、お金が掛かってでも守っていくことが必要ではないかと感じました。

また、農業委員として農地を守る働きかけを行っていくことが重要と思いました。

振興部会 有賀 勉

振興部会では、昨年11月11日に高山村を中心に研修視察を行いました。

最初に信州たかやまワイナリーにおいて、昨年の秋に完成したワイナリーと整備された圃場を視察しました。

経営者の涌井一秋さんから、高山村は農業従事者の高齢化や後継者不足などにより、優良農地の保全に大きな課題が残ると説明をされました。そこで栽培に適した自然条件と遊休荒廃農地解消のために、付加価値が高いワイン用ブドウ栽培に着目し、整備事業などを活用して約7畝の圃場とワイナリーを建設したそうです。高山村産ワインで、村おこしにも貢献し、中核ワイナリーとしても自覚を持つてやりたいとの決意を熱く語ってくださいました。

次に松本果樹園の松本和実さんのワイ化栽培を中心としたリング園地を視察し、松本さんが改良したリングを試食しました。信州を代表するよ

うな、おいしい品種のリングに期待したいです。

最後に小布施町の桜井甘精堂本社工場を見学しました。歴史ある栗ようかんや落雁などの原材料は、国内産を多く使用し、安心・安全に万全の注意を払っており、その栗菓子

の品質管理された製造工程を見ることが出来ました。研修を通して、地域色を生かした特産品を生産して、頑張っている経営者や農家さんの姿を見ることができた有意義な研修視察を基に、農業委員活動を強化していきたいと思いました。



▲ブドウ園視察の様子

「荒廃農地における利用意向について」の提出を
願います。

農業委員会では、遊休農地の解消に向け、遊休荒廃地の利用意向について調査を行っております。期限日までに必ず、提出をさせていただきますようお願いいたします。

提出期限 1月31日(火)